

1. 事業の実施地域及び対象水産動物

- (1) 事業の実施地域：沖縄県宮古地区
 - (2) 対象水産動物：ミナミクロダイ、クルマエビ、シラヒゲウニ
 - (3) 実施地域位置図：図6のとおり
2. 事業実施地域の概況
- (1) 一般概況

本地域は沖縄振興開発計画に定める宮古圏域に該当し、北東から南西に弓状に連なる琉球弧のほぼ中間にあつて、北緯24°から25°、東経125°から126°を結ぶ網目の中に位置している。沖縄本島からおよそ326km、八重山群島の石垣島からおよそ156kmの距離にあつて宮古島・伊良部島等八つの島からなっている。関係市町村は平良市、城辺町、下地町、伊良部町、上野村、多良間村の1市、3町、2村である。本群島の総面積は本県総面積の1/10に当たる227.04km²で、地域を中心である宮古島が最も大きく地域全体の70%を占めている。

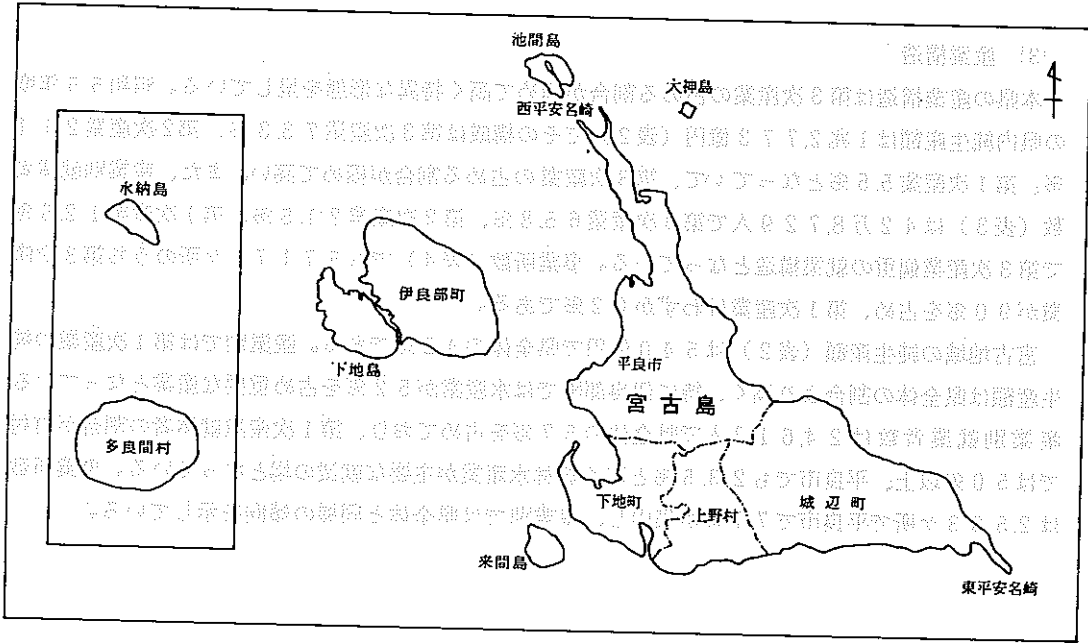


図1 宮古群島図

(2) 人口

本県の人口は1,140,563人で(昭和57年3月末)、年々増加傾向にある。宮古地域は62,629人で県全体の5.5%を占め、昭和50年頃までは減少を続けていたが、その後は増加している。

地域内の市町村別人口は表1に示したように平良市が全体の54.03%で最も多く、次いで城辺町の16.97%、伊良部町15.54%、上野村5.59%、下地町4.86%、多良間村3.01%となっており、昭和55年の人口より全体的に増加している。

表1 宮古地域市町村人口の推移

地区	昭和40年		昭和45年		昭和50年		昭和55年		昭和57年		備考
	人	構成比	人	構成比	人	構成比	人	構成比	人	構成比	
沖縄県	934,176	100%	945,111	100%	1,042,572	100%	1,106,559	100%	1,140,563	100%	* 市町村の構成比は宮古郡を100とし、 た比率である。
宮古郡	69,816	7.47	60,957	6.45	57,762	5.54	60,464	5.46	62,629	5.49	
平良市	32,591	46.68	29,721	48.76	29,301	50.73	32,924	54.45	33,839	54.03	
城辺町	14,550	20.84	12,053	19.77	10,883	18.84	10,203	16.87	10,631	16.97	
下地町	5,206	7.46	4,022	6.60	3,116	5.39	3,017	4.99	3,043	4.86	
伊良部町	10,263	14.70	9,132	14.98	9,164	15.87	9,153	15.14	9,731	15.54	
上野村	4,603	6.59	3,739	6.13	3,493	6.05	3,500	5.78	3,498	5.59	
多良間村	2,603	3.73	2,286	3.75	1,805	3.12	1,667	2.76	1,887	3.01	

資料：総理府統計局国税調査報告（昭和57年は県企画調整部）

(3) 産業構造

本県の産業構造は第3次産業の占める割合が極めて高く特異な形態を呈している。昭和55年度の県内純生産額は1兆2,773億円（表2）でその構成は第3次産業73.3%、第2次産業21.1%、第1次産業5.5%となっていて、第3次産業の占める割合が極めて高い。また、産業別就業者数（表3）は42万8,729人で第3次産業65.8%、第2次産業21.5%、第1次産業12.6%で第3次産業偏重の就業構造となっている。事業所数（表4）でも57,171ヶ所のうち第3次産業が90%を占め、第1次産業はわずか0.2%である。

宮古地域の純生産額（表2）は540億円で県全体の4.2%である。産業別では第1次産業の純生産額は県全体の割合より高く、特に伊良部町では水産業が52%を占め重要な産業となっている。産業別就業者数は24,613人で県全体の5.7%を占めており、第1次産業就業者の割合が町村では50%以上、平良市でも23.5%と高く農林水産業が主要な就業の場となっている。事業所数は2,583ヶ所で平良市で77%が集中し、産業別では県全体と同様の傾向を示している。

（注）本表は、国勢調査による人口推計値に基づき、(1)昭和57年（推計）の人口を100とした場合の人口構成比を示している。また、(2)昭和57年（推計）の人口を100とした場合の人口構成比を示している。なお、(3)昭和57年（推計）の人口を100とした場合の人口構成比を示している。また、(4)昭和57年（推計）の人口を100とした場合の人口構成比を示している。なお、(5)昭和57年（推計）の人口を100とした場合の人口構成比を示している。

表2 産業別純生産額の状況(昭和55年度)

単位:百万円・%

産業 地区	全産業			第1次産業			第2次産業							
	実数	構成比	計	水産業		農	鉱		山	建設業				
				実数	構成比		実数	構成比						
県計	1,277,388	100	71,251	5.5	13,909	1.1	57,342	4.5	269,687	21.1	3,196	0.3	162,571	12.7
宮古地域計	54,044	100	15,191	28.1	7,455	13.8	7,735	14.3	11,815	21.8	120	0.2	8,583	15.9
平良市	27,466	100	2,847	10.4	890	3.2	1,957	7.1	7,109	25.9	60	0.2	5,033	18.3
城辺町	7,147	100	2,561	35.8	71	1.0	2,490	34.8	1,572	22.0	16	0.2	1,241	17.4
下地町	2,708	100	1,203	44.4	23	0.8	1,180	43.6	563	20.8	-	-	401	14.8
上野村	3,270	100	921	28.2	5	0.2	916	28.0	510	15.6	-	-	401	12.3
伊良部町	12,297	100	7,169	58.3	6,425	52.3	744	6.1	1,817	14.8	44	0.4	1,365	11.1
多良間村	1,161	100	489	42.1	41	3.5	448	38.6	244	21.0	-	-	142	12.2

産業 地区	製造業			第3次産業			第2次産業									
	実数	構成比	計	卸・小売業		金融・保険・不動産	運輸・通信業		電気・ガス・水道	サービス業	公務					
				実数	構成比		実数	構成比				実数	構成比			
県計	103,920	8.1	936,477	73.3	284,159	22.2	144,303	11.3	76,148	6.0	13,785	1.1	314,770	24.6	103,279	8.1
宮古地域計	3,112	5.8	27,039	50.0	9,920	18.4	2,575	4.8	3,025	5.6	568	1.1	5,097	9.4	5,854	10.8
平良市	2,016	7.3	17,510	63.8	7,687	28.0	2,044	7.4	1,986	7.2	428	1.6	2,497	9.1	2,868	1.0
城辺町	315	4.4	3,014	42.2	839	11.7	223	3.1	345	4.8	36	0.5	731	10.2	840	11.8
下地町	162	6.0	942	34.8	229	8.5	111	4.1	49	1.8	16	0.6	250	9.2	287	10.6
上野村	109	3.3	1,839	56.2	257	7.9	61	1.9	115	3.5	16	0.5	647	19.8	743	22.7
伊良部町	408	3.3	3,306	26.9	823	6.7	136	1.1	486	4.0	48	0.4	844	6.9	969	7.9
多良間村	102	8.8	428	36.9	85	7.3	-	-	44	3.8	24	2.1	128	1.0	147	12.7

注 県計は県民所得統計報告書 但し宮古地域及び市町村の純生産は宮古支庁の推計

表3 産業別就業者数

年次	区分 地区	総数	第1次産業			第2次産業	第3次産業
			計	水産業	農林業		
		人 %	人 %	人 %	人 %	人 %	
昭50	沖縄県	379,803(100)	52,834(13.9)	4,590(1.2)	48,244(12.7)	78,983(20.8)	245,897(64.7)
	宮古地域	21,355(100)	10,253(48.0)	975(4.6)	9,278(43.4)	3,002(14.1)	8,100(37.9)
昭55	沖縄県	428,729(100)	53,931(12.6)	4,999(1.2)	48,932(11.4)	92,187(21.5)	282,164(65.8)
	宮古地域	24,613(100)	9,693(39.4)	1,108(4.5)	8,585(34.9)	4,148(16.9)	10,757(43.7)
	平良市	13,365(100)	3,144(23.5)	356(2.7)	2,788(20.9)	2,487(18.6)	7,731(57.8)
	城辺町	4,252(100)	2,679(63.0)	7(0.2)	2,672(62.8)	559(13.1)	1,008(23.7)
	下地町	1,483(100)	946(63.8)	3(0.2)	943(63.6)	198(13.4)	338(22.8)
	上野村	1,565(100)	920(58.8)	-	920(58.8)	182(11.6)	462(29.5)
	伊良部町	3,324(100)	1,628(49.0)	724(21.8)	904(27.2)	638(19.2)	1,054(31.7)
	多良間町	624(100)	376(60.3)	18(2.9)	358(57.4)	84(13.5)	164(26.3)

資料：総理府統計局 国税調査報告書

表4 産業別事業所数（昭和53年）

地区	産業 総数	第1次産業	第2次産業				第3次産業						
			計	鉱業	建設業	製造業	計	卸小売業	金融業	保険業	不動産業	運輸業	電気ガス水道熱業
沖縄県	57,171	116	5,225	32	2,230	2,963	51,830	36,380	549	1,620	1,724	41	11,516
宮古地域	2,583	12	352	2	146	204	2,219	1,637	14	26	92	3	447
平良市	1,978	7	260	2	98	160	1,711	1,249	13	26	47	2	374
城辺町	149	-	19	-	13	6	130	100	-	-	19	-	11
下地町	69	2	20	-	8	12	47	33	1	-	6	-	7
上野村	58	1	7	-	4	3	50	33	-	-	7	-	10
伊良部町	283	-	40	-	19	21	243	195	-	-	12	-	36
多良間村	46	2	6	-	4	2	38	27	-	-	1	1	9

資料：沖縄統計年鑑（昭和55年版）

(4) 海洋環境

ア. 海底地形

宮古諸島の海岸地形で特徴的なことは、サンゴ礁が発達していることである。サンゴ礁のタイプは島のほぼ全周をとりまく裾礁と、単独あるいは群体をなして浅海に発達する卓礁と小規模な離礁がある。裾礁は宮古島の東及び南側海岸に発達し、礁縁内側には水深1~3mの礁地がみられる。また、宮古島北方域、宮古島~伊良部島水域には大小無数の離礁が存在する。与那覇湾とその地先には広大な砂質帯がある。

サンゴ礁域は波浪も静穏で、藻場や転石等があり、増養殖業や沿岸小型漁船漁業に高度に利用され、生産性の高い海域である。これらサンゴ礁は水深20m以浅にみられる。砂質帯を形成する砂粒は有孔虫殻等石灰質の生物起源のものであるが、その分布は水深20~40mの浅海域に多い。

宮古諸島周辺の島棚(200m以浅域)は、3,400haで全島の26%を占める。さらに0~20m域の面積は島棚の1/10にあり、今後の増養殖開発可能面積は大きい。

1. 気象・海況

宮古諸島は地理的緯度から亜熱帯性気候であり、高温多湿である。年間平均気温は23.1℃で、夏季の最高34.6℃、冬季の最低6.9℃の記録がある。夏季高温期は7月~9月、冬季の低温期は1月~2月である。梅雨期は5月、6月で昇温期にあたり本土より1ヶ月程早い。また、10月~11月の北東季節風の吹きだす頃から降温する。本地域はアジア大陸東岸の季節風(モンスーン帯)に入っているため、冬季は北~北東季節風が卓越し風浪、うねりが大きく、概して海況は悪い。夏季は南から東の風が多く、静穏日が続く。しかし、南方熱帯海域で年間28.8個発生する台風は、宮古近海に年平均4.1個接近し、7月~10月に襲来回数が多い。台風は漁船の出漁日数の制約等漁業生産活動に与える影響は甚大である。

平良港の沿岸水温は冬季20~21℃、夏季28.3~28.9℃で年平均24.5℃である。海水比重は年平均25.0で、冬季25.1~25.4、夏季24.7~24.8で冬季に高くなる季節変化を示す。一方、佐和田浜礁池の観測によると、8月の最高30.2℃、1月は22℃であり、塩分濃度は8月33.94~34.05‰であった。しかし、干潟域や伊良部水道では夏季は34℃まで昇温し、冬季は気温、強風によって14℃まで下がることもある。

(5) 宮古地区の漁業実態

表5 市町村別漁獲量等

区 分	面 積(km ²)	総 人 口			漁業従事者 人	登録漁船数 隻	総漁獲量 t	沿岸漁獲量 t
		合計(人)	男(人)	女(人)				
平良市	63.95	33,839	16,488	17,351	709	476	9,682	879
城辺町	57.90	10,631	5,350	5,281	80	29	93	93
下地町	23.22	3,043	1,508	1,535	56	28	35	35
伊良部町	40.13	9,731	4,939	4,792	560	176	25,909	1,761
上野村	19.28	3,498	1,740	1,758	2	5	4	4
多良間村	22.56	1,887	968	919	43	29	54	54
合 計	227.04	62,629	30,993	31,636	1,450	743	35,777	2,826
比率(%)	10.09	5.49	5.50	5.49	18.97	12.91	60.67	21.09
沖 縄 県	2,249.46	1,140,563	564,009	576,554	7,645	5,756	58,967	13,395

資料：面積・国土地理院 人口・沖縄県企画調整部 昭和56年度水産統計

漁 場 図

本島の沿岸には、多くの漁場が分布している。本図は、本島の主要な漁場を示している。漁場の種類は、一本釣、曳網、追込網、三板網、小型巻網に分類される。また、漁期の異なる漁場も示されている。本図は、本島の地理的特徴と漁場の分布を詳細に示している。

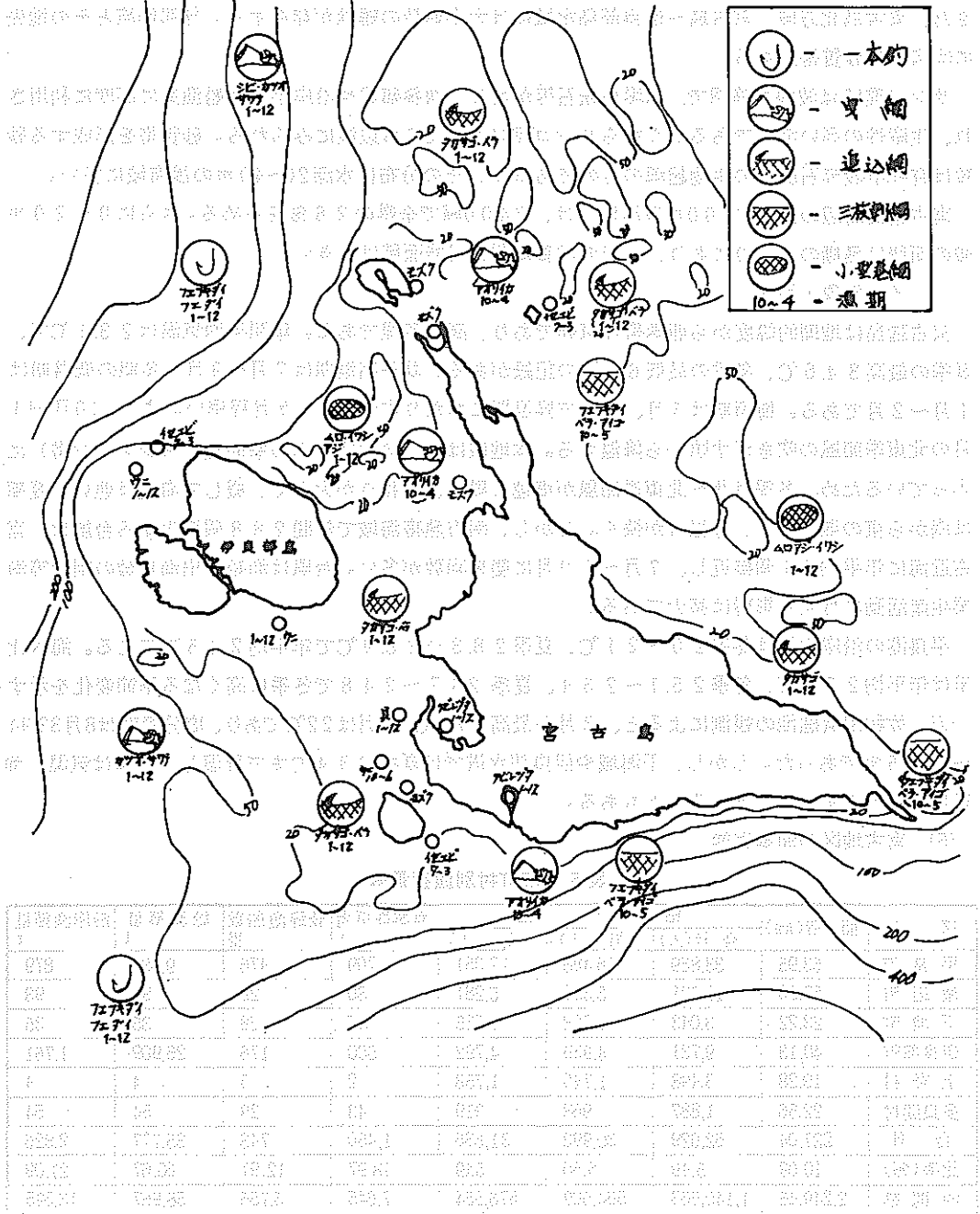


図2-1 主要漁場図

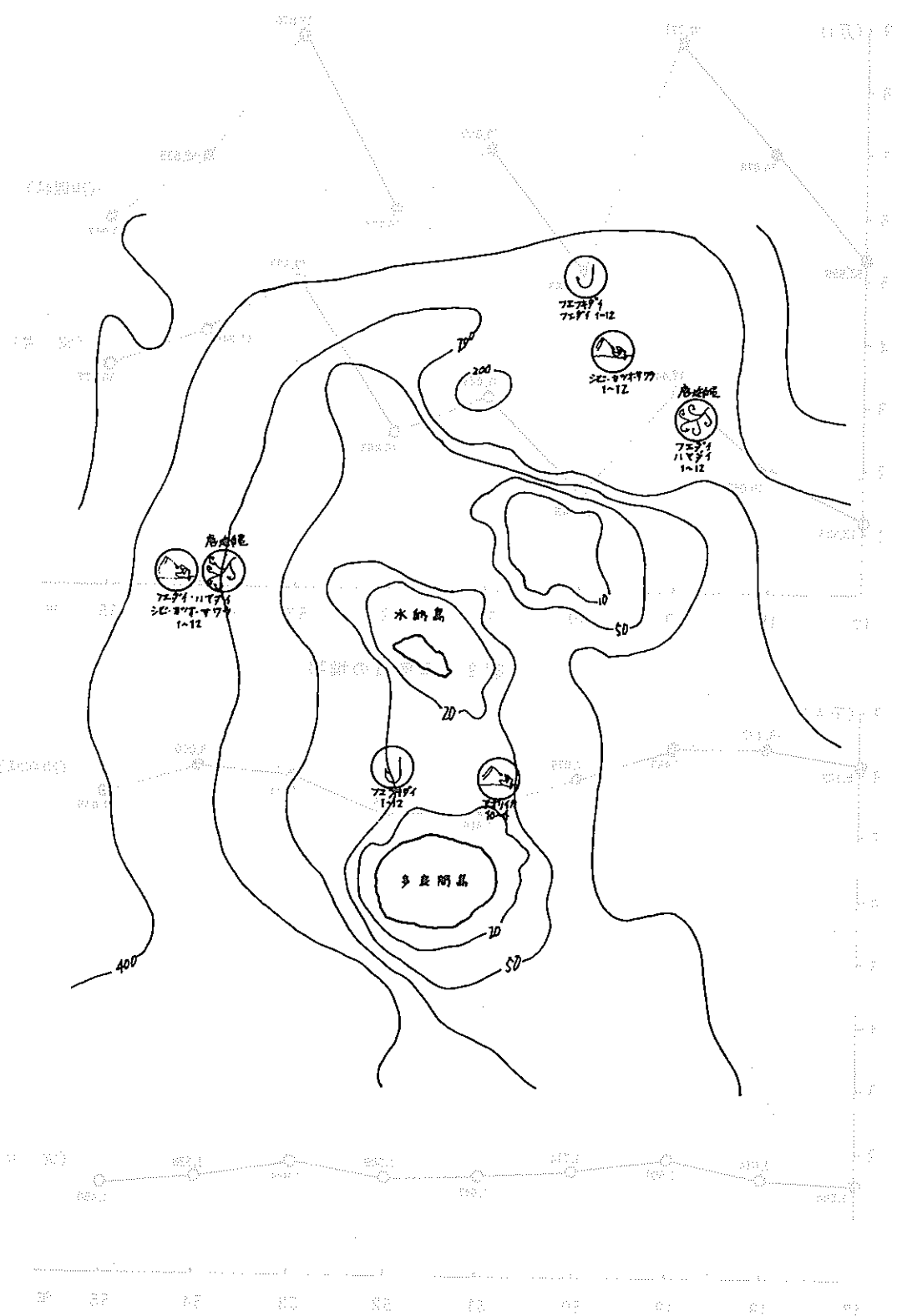


图 2-2 主要渔场图

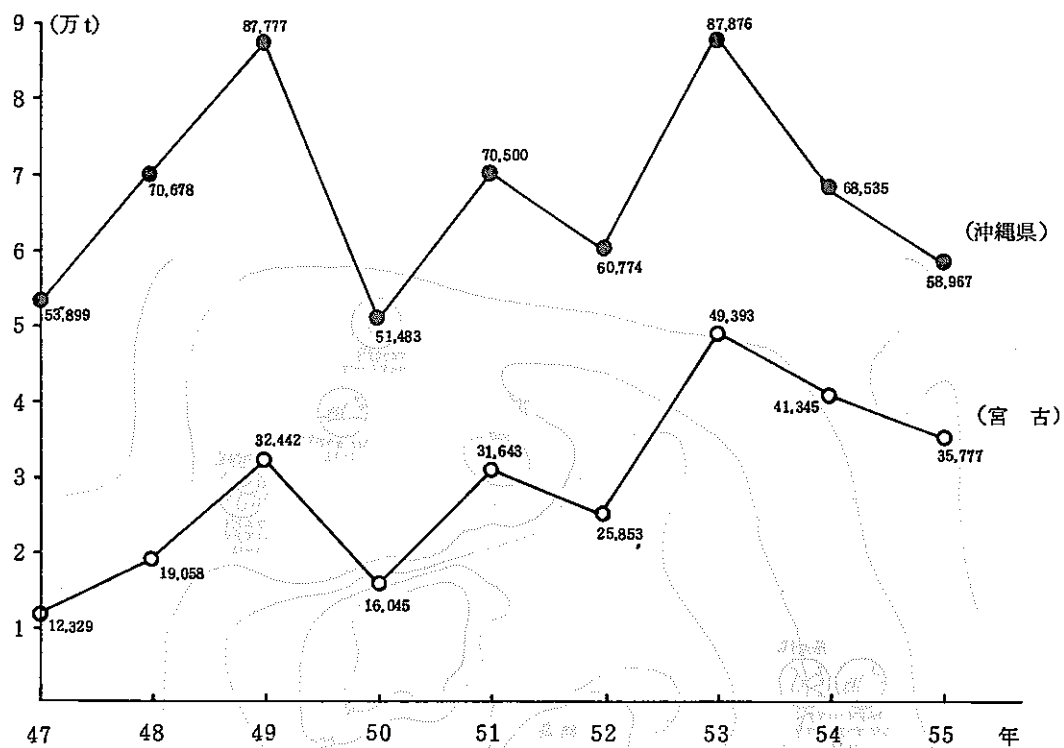


図3 漁獲量の推移

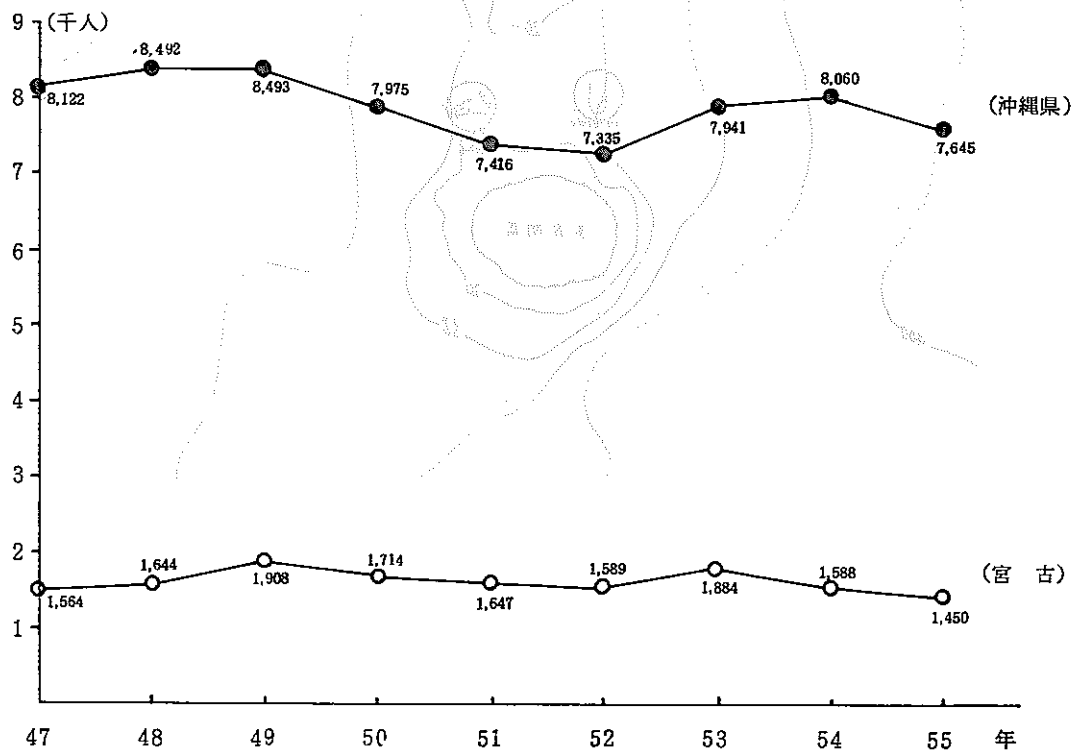


図4 漁業従事者の推移

(6) 地区内漁業協同組合の現況

本地区内には3つの漁業協同組合があり組合員数は合計で1,909人で、その内訳は正組合員1,151人、准組合員が758人となっている。この3漁協の中で最も多数の組合員を有する漁協は平良市漁協(1,091人)で、以下伊良部村漁協(493人)、池間漁協(325)の順となっている。3漁協の主要事業としては、信用事業(貯金、貸付)、購売、販売等である。

表6 漁業協同組合一覧表

漁協名	組合長名	役員数			職員数		組合員数			許立登記 年 日 日
		理事		監事	参事	その他 職員	正	准	計	
		常勤	非常勤							
平良市	上里寛昌	1	16	4	0	9	464	627	1,091	S 35. 2. 1
池間	砂辺達男	1	11	3	0	12	227	98	325	S 26. 9. 26
伊良部村	喜久川繁	2	10	3	0	18	460	33	493	S 26. 11. 27
計		4	37	10	0	38	1,151	758	1,909	

資料: (昭和55年度業務報告)
(昭和56年12月31日現在)

3. 栽培漁業推進協議会の構成及び運営

(1) 構成

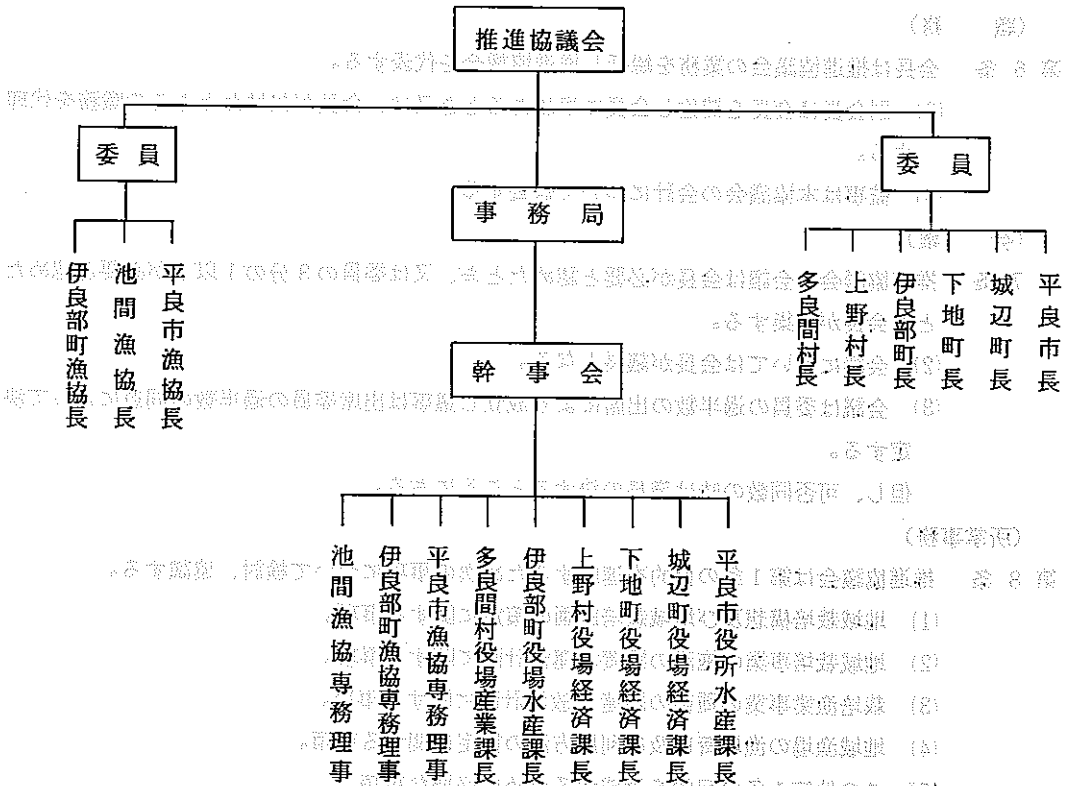


図5 栽培漁業推進協議会の構成

(2) 運営体制

宮古地区栽培漁業推進協議会規約(昭和57年8月)

(名称)

第1条 この協議会は宮古地区栽培漁業推進協議会という。

(目的)

第2条 宮古地区栽培漁業推進協議会(以下「推進協議会」という)は宮古地区における栽培漁業の構想及び栽培計画の策定を行ない栽培漁業の円滑なる事業の推進及び漁場の管理方式の確立を図り、もって宮古地区の漁業生産の安定及び増産を図ることを目的とする。

(適用地域)

第3条 宮古地区は宮古群島一円の沿岸域で共同漁業権漁場第21号及び第22号の範囲とする。

(協議会委員の構成)

第4条 推進協議会の委員は次に掲げる団体及び機関の長をもって構成する。

- (1) 適用地域関係3 漁業協同組合(平良市漁協、伊良部町漁協、池間漁協)
- (2) 平良市、城辺町、上野村、下地町、伊良部町、多良間村

(役員)

第5条 推進協議会に会長1名、副会長2名、監事2名を置く。

- (2) 役員は委員の互選により決定する。
- (3) 役員の任期は2年とする。ただし再任は妨げない。

(職務)

第6条 会長は推進協議会の業務を総括し推進協議会を代表する。

- (2) 副会長は会長を補佐し会長に事故あるとき又は、会長が欠けたときその職務を代理する。
- (3) 監事は本協議会の会計について監査する。

(会議)

第7条 推進協議会の会議は会長が必要と認めるとき、又は委員の3分の1以上が必要と認めるとき会長が招集する。

- (2) 会議においては会長が議長となる。
- (3) 会議は委員の過半数の出席により成立し議事は出席委員の過半数の同意によって決定する。

但し、可否同数の時は議長の決するところにある。

(所掌事務)

第8条 推進協議会は第1条の目的を達成するため次の事項について検討、協議する。

- (1) 地域栽培構想及び地域栽培計画の策定に関する事項。
- (2) 地域栽培事業の施設の設置、運営計画に関する事項。
- (3) 栽培漁業事業の種苗の調達、放流計画に関する事項。
- (4) 地域漁場の漁場管理及び利用方法の策定に関する事項。
- (5) その他第1条の目的を達成するために必要な事項。

(事務局)

- 第9条 推進協議会に関する庶務を処理するため事務局を平良市に置く。
- (2) 事務局に推進協議会へ付議すべき事項について検討、協議するため幹事会を置く。
- (3) 幹事会の構成は適用地域3漁協の専務理事及び6市町村の水産担当課長、担当職員をもってあてる。

(経費)

第10条 本会の運営に関する経費は会費及び負担金及び補助金をもって充てる。

(会計年度)

第11条 本会の会計年度は毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

(監査)

第12条 本会の会計監査は監事が年1回以上行ない会計年度終了後の推進協議会に報告するものとする。

(その他)

第13条 この規約に定めるもののほか、推進協議会の運営、その他必要な事項は会長が推進協議会に諮って定める。

4. 事業目標

昭和60年度から種苗生産業務を開始し、シラヒゲウニ(10mm)50万個、クルマエビ(30mm)100万尾、ミナミクロダイ(30mm)20万尾の放流を目標とする。これを保護、育成、管理することにより以下に示すような効果が期待できる。

(1) シラヒゲウニ

放流種苗: 10mm、500,000個.....①

育成期間: 5月~翌年7月、歩留り60%.....②

漁獲サイズ: 7cm以上、身入り10g、全重150g...③

回収期待量: ①×②×③=45,000kg.....④

生産期待額: ④×250円/kg=11,250,000円.....⑤

利益率: 81.3%.....⑥

純益 ⑤×⑥=9,150,000円

(2) クルマエビ

種苗: 12mm、1,700,000尾.....①

中間育成: 歩留り60%.....②

放流種苗: 30mm、①×②=1,000,000尾.....③

定着率: 50%.....④

回収率: 45%.....⑤

回収期待量: ③×④×⑤×20g/尾=4,500kg⑥

生産期待額: ⑥×4,000円/kg=18,000,000円⑦

利益率: 68.4%.....⑧

純益: ⑦×⑧=12,300,000円

(3) ミナミクロダイ

- 回収期待量：18,240 kg ①
- 生産期待額：①×1,000円/kg=18,200,000円..... ②
- 利益率：65.7% ③
- 純益：②×③=12,000,000円

表7 ミナミクロダイ放流による生産効果の試算表

上段は漁獲尾数
下段は漁獲量

	昭和60年度	昭和61年度	昭和62年度	昭和63年度	昭和64年度	昭和65年度
昭和60年度種苗	放流 200,000尾	20,000尾 3,000 kg	12,800尾 3,840 kg	6,600尾 3,960尾	4,200尾 4,200 kg	2,700尾 3,240 kg
昭和61年度種苗		放流 200,000尾	20,000尾 3,000 kg	12,800尾 3,840 kg	6,600尾 3,960 kg	4,200尾 4,200 kg
昭和62年度種苗			放流 200,000尾	20,000尾 3,000 kg	12,800尾 3,840 kg	6,600尾 3,960 kg
昭和63年度種苗				放流 200,000尾	20,000尾 3,000 kg	12,800尾 3,840 kg
昭和64年度種苗					放流 200,000尾	20,000尾 3,000 kg
計		20,000尾 3,000 kg	32,800尾 6,840 kg	39,400尾 10,800 kg	43,200尾 15,000 kg	45,900尾 18,240 kg

ミナミクロダイ

魚令	算出基礎	
0	A	放流尾数(サイズ) (30mmサイズ) 200,000尾
1	B	自然生残尾数(A×自然生残率0.5)
	C	漁獲尾数(B×漁獲率0.2)
	D	漁獲量(C×0.15kg/尾)
2	A ¹	当初資源尾数(B-C)
	B ¹	自然生残尾数(A ¹ ×自然生残率0.8)
	C ¹	漁獲尾数(B ¹ ×漁獲率0.2)
3	A ²	当初資源尾数(B ¹ -C ¹)
	B ²	自然生残尾数(A ² ×自然生残率0.8)
	C ²	漁獲尾数(B ² ×漁獲率0.2)
4	A ³	当初資源尾数(B ² -C ²)
	B ³	自然生残尾数(A ³ ×自然生残率0.8)
	C ³	漁獲尾数(B ³ ×漁獲率0.2)
5	A ⁴	当初資源尾数(B ³ -C ³)
	B ⁴	自然生残尾数(A ⁴ ×自然生残率0.8)
	C ⁴	漁獲尾数(B ⁴ ×漁獲率0.2)
	D ⁴	漁獲量(C ⁴ ×1.2kg/尾)

(4) 昭和65年度漁獲増及び生産額

	漁獲量	生産額	純益
シラヒゲウニ	45,000kg	11,250,000円	9,150,000円
クルマエビ	4,500kg	18,000,000円	12,300,000円
ミナミクロダイ	18,240kg	18,200,000円	12,000,000円
計	67,740kg	47,450,000円	33,450,000円

5. 種苗の生産、放流計画

表8 種苗の生産放流計画

種名	生産目標	放流サイズ	1月 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12											
			飼育										採卵	
シラヒゲウニ	50万個	10mm	飼育										採卵	
ミナミクロダイ	20万尾	30mm	採卵・飼育											
クルマエビ	100万尾	30mm	採卵・飼育											

6. 施設整備及び推進体制整備計画

表9 施設明細

区分	種目	構造・規模	面積 容積	区分	種目	構造・規模	面積 容積	
種苗生産施設	陸上種苗生産施設			種苗生産施設	取排水施設			
	親魚育成池	φ2.5m×2m×2面	60t		取水施設	取水池 取水管 取水ポンプ		
	餌料培養池					上架タンク その他給		
	クロレラ槽	10m×7m×2m×2面	250t		排水施設	排水溝、菜堀池		
	ワムシ槽	7m×4m×2面	100t		送気施設	送気ポンプ 送気配管		
	付着硅藻槽	7m×4m×4面	200t		水道管布設	L=800m 塩ビ30φ		
	フ化飼育池				生産用機器	測定用機器一式 その他		
	クロダイ	7m×4m×2m×4面	100t		構内整備			
	シラヒゲウニ	5m×1.2m×0.7m×30面	108t		構内道路	W=4.0m L=400m		
	陸上管理運営施設				フェンス	H=1.8m L=500m		
	管理棟		200㎡		植栽			
	作業棟		200㎡					
	機械棟	ポンプ、受変電施設用	150㎡					
	車庫	4m×6.5m	26㎡					
	作業運搬施設				中間育成施設	海上中間育成施設		
	浮棧橋	W=4.0m L=20.0m				クルマエビ	網囲い3ヶ所	
	作業船	FRP 船外機2t				陸上管理運営施設		
管理航路	10m W=10m L=180m			管理小屋	作業場 その他必要備	60㎡		
貨物自動車	ピックアップ1.5t				品を含む			
その他の施設			育成漁場施設	人工魚礁	クロダイ、1m角型魚礁			
電気設備	受変電施設100kw 発電機50kw 配電工事一式			ウニ魚礁設置	3地区 投石30cm 1㎡5~6個 7地区			

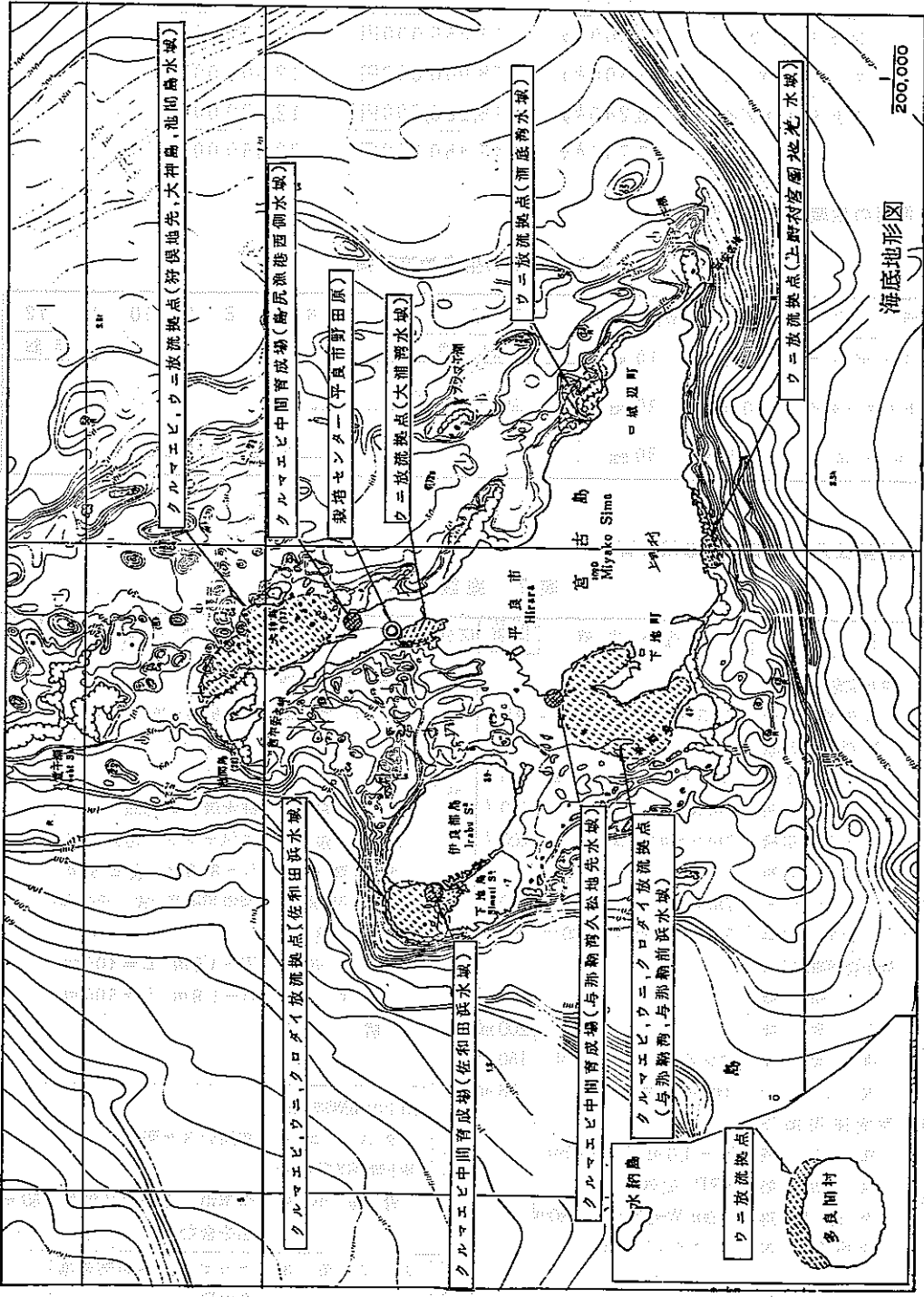
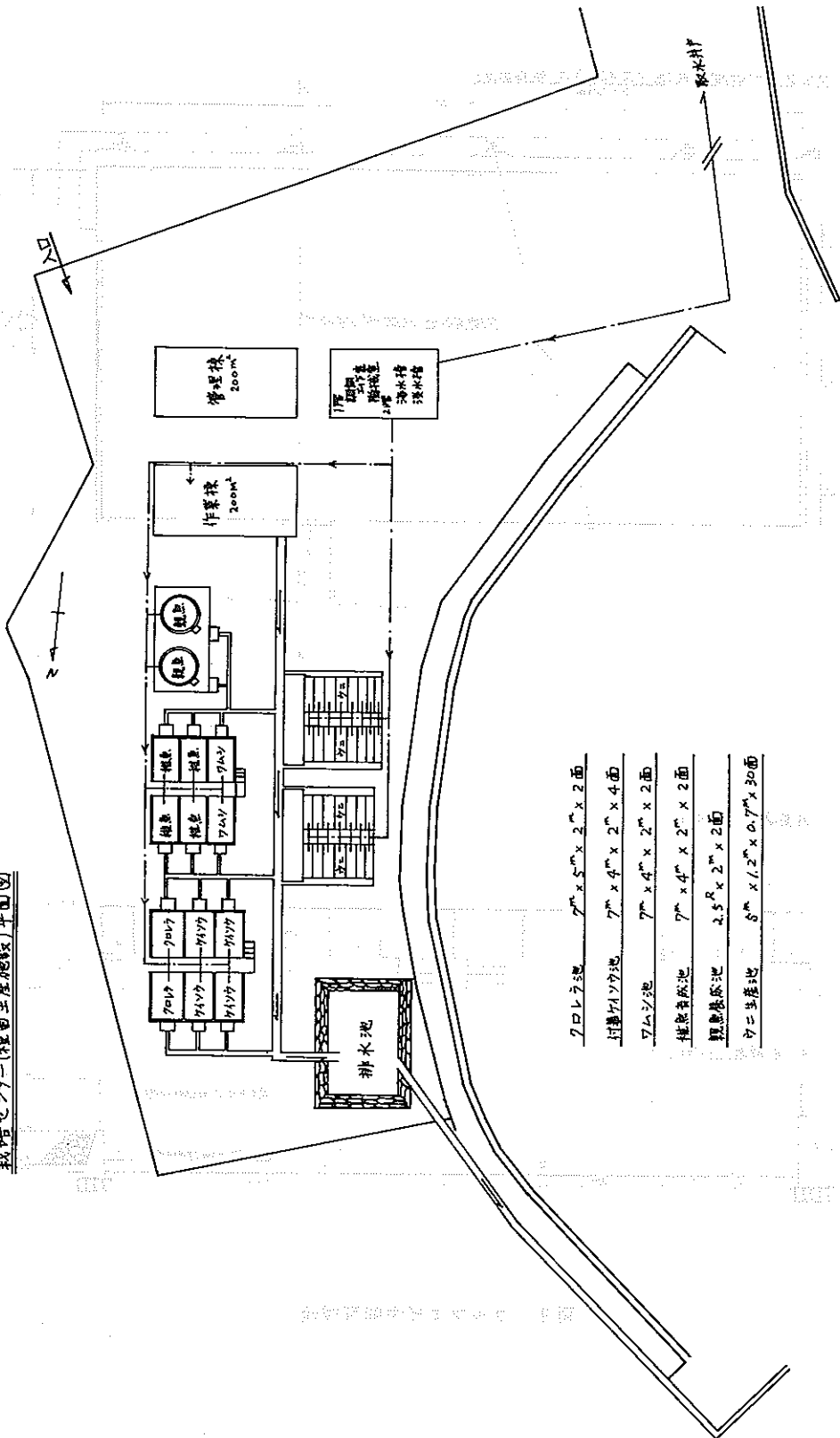


図6 事業実施地域位置図

栽培センター(種苗生産施設)平面図



- 70x70池 7m x 5m x 2m x 2面
- 1層74x70池 7m x 4m x 2m x 4面
- 74x70池 7m x 4m x 2m x 2面
- 作業倉庫池 7m x 4m x 2m x 2面
- 観魚池 2.5⁸ x 2m x 2面
- 7ニ生産池 8m x 1.2m x 0.7m x 30面

図7 種苗生産施設平面図

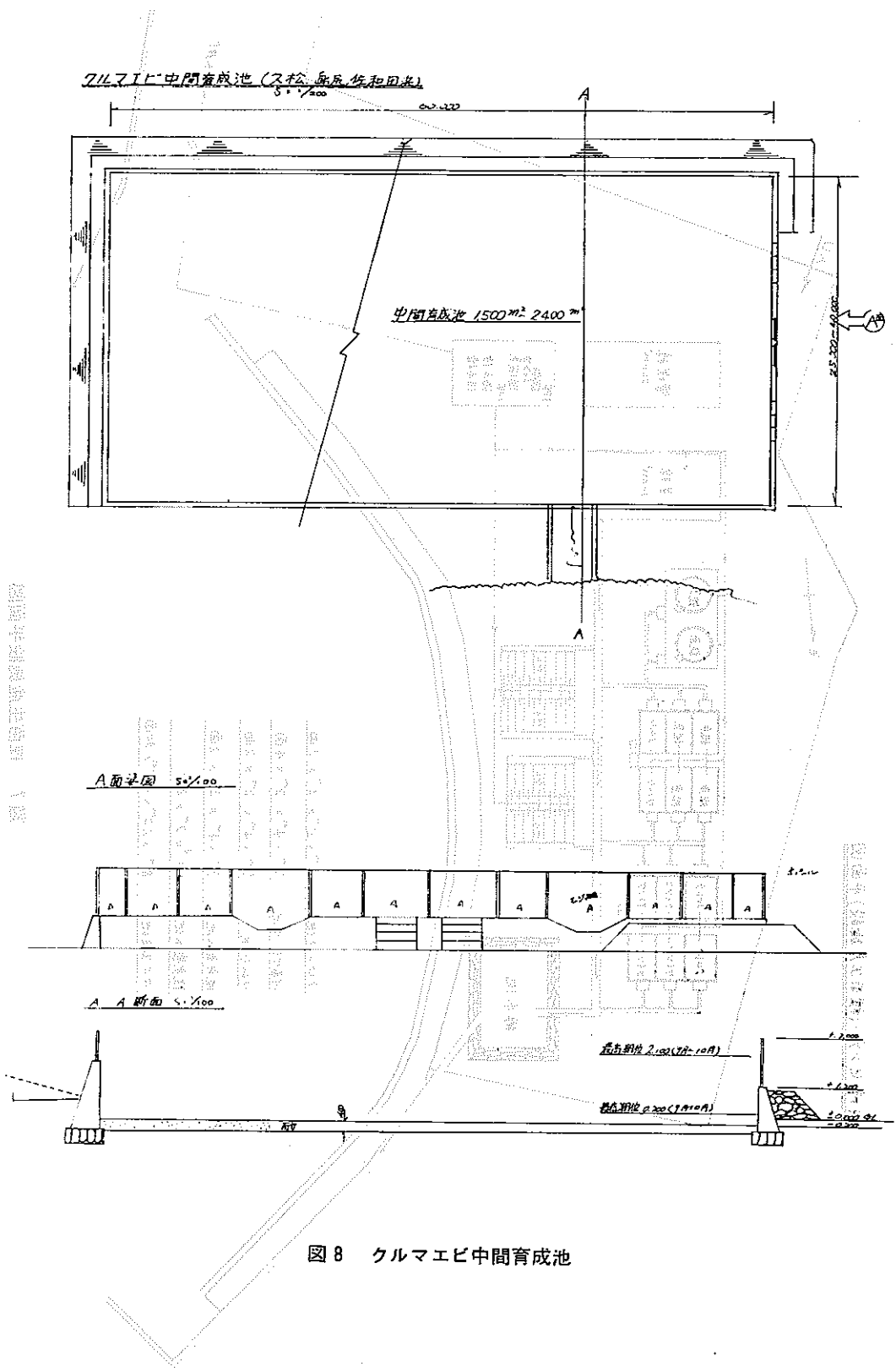


図8 クルマエビ中間育成池

宮古地区における有望な栽培漁業対象種

種名	地名	技術段階	島尻	大浦湾	与那覇湾	保良	佐和田浜	水納島	多良間島	調査地点以外	生息環境
ミナミクロダイ	(チン)	◎			○					嘉手刈湾	汽水域→リーフ周辺
ハマフエフキ	(タマン)	○	○		○						リーフ内→リーフ周辺
ゴマアイゴ	(カーエー)	○			○						汽水域→リーフ周辺・藻場
マダラハタ	(コダヤ-ミンペイ)	△									→リーフ周辺
マダイ	(マジク)	◎									(藻場周辺→浅海域)
クルマエビ		◎	○								干潟
ウシエビ		△					○				汽水域・マングローブ域
フトミゾエビ	(シルセー)	○			○						淡水の影響の少ない砂地
イセエビ類	(イビ)	×									リーフ外縁部より内側
タイワンガザミ	(チヌガニ)	◎			○						
ノコギリガザミ	(ガザミ)	△	○		○					嘉手刈湾	汽水域・マングローブ域
コブシメ		○									リーフ周辺
アオリイカ	(シロイカ)	×									リーフ周辺
ヒメジャコ	(ギイラー)	◎						○			礁原部及び礁池
ウラキツキガイ		×			○						砂質底
クチベニツキガイ		×			○						砂質底
チョウセンサザエ	(マンナー)	×									リーフ縁部～礁原部
ミミガイ	(アービ)	×									リーフ縁部～礁原部
ヒオウギ		◎									富栄養の内湾
シラヒゲウニ	(ガシチャー)	○		○			○		○	来間～前浜	藻場